

付録 12

預言者ムハンマドの役割

預言者の唯一の使命は、コーランを伝えること、すなわちコーランのすべてを、そしてコーラン以外はなにも加えずに伝えることだった。(3:20; 5:48-50, 92, 99; 6:19; 13:40; 16:35, 82; 24:54; 29:18; 42:48; 64:12)。

コーランを届けることは、非常に重大かつ高潔な任務であったため、預言者には他のことをする時間は一切なかった。さらに、預言者はコーラン以外のいかなる宗教的教えも発しないよう、最も強い言葉で命じられていた (69:38-47)。彼はコーランを解説することさえ禁じられてた (75:15-19)。——神こそがコーランの唯一の教師であり (55:1-2)、コーランこそが「最高のハディース (言行録)」なのである (39:23 および 45:6)。

これらのコーラン上の事実は、預言者に帰せられる言葉や行動 (ハディースとスンナ) が、彼の死後 2 世紀経つまで現れなかったという歴史的現実の中に現れている。コーランは、預言者の敵によるハディースとスンナの捏造を予言していた (6:112-115)。コーランは、口先だけで信じ、心で信じていない者を暴き出す基準として、ハディースやスンナの発明を許容することが神の意志であったと教えている。ハディースやスンナに惹かれる者は、偽りの信者であることが証明されるのである。6:113)。皮肉なことに、ハディースの書物自体が、コーラン以外は自分 (ムハンマド) から何も書き留めるなという預言者の命令を伝えている。以下に示すのは、ハディース学者が最も信頼を置く資料である『サヒーハ・ムスリム』と『イスハーク・アフマド・イブン・ハンバル』から引用した 2 つのハディースである。

عَنْ أَبِي سَعِيدٍ الْخُدْرِيِّ رَضِيَ اللَّهُ عَنْهُ قَالَ : قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ : «لَا تَكْتُبُوا عَنِّي شَيْئًا سِوَى الْقُرْآنِ . مَنْ كَتَبَ شَيْئًا سِوَى الْقُرْآنِ فَلْيَمْحُهُ» (١) .

予言者は言いました。「私 (ムハンマド) から、コーラン以外の何物も書き留めてはならない。」

[アフマド、第 1 巻、171 ページ、および サヒーハ・ムスリム]

عَنْ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ قَالَ : [دَخَلَ زَيْدُ بْنُ ثَابِتٍ رَضِيَ اللَّهُ
عَنْهُ عَلَى مُعَاوِيَةَ رَضِيَ اللَّهُ عَنْهُ ، فَحَدَّثَهُ حَدِيثًا ، فَأَمَرَ إِنْسَانًا أَنْ يَكْتُبَ ،
فَقَالَ زَيْدُ : إِنَّ رَسُولَ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ نَهَى أَنْ نَكْتُبَ شَيْئًا
مِنْ حَدِيثِهِ ، فَمَحَاهُ] .

このハディースは、預言者が死ぬまでハディース否定の立場を維持していたことを示しています。

[アフマド、第1巻、192 ページ]